News of The Japanese Weekend School of New York

BIG APPLE

ニューヨーク補習授業校
56 Harrison St. Suite204
New Rochelle, NY 10801 U.S.A.
Tel:(914)636-3770
Fax:(914)636-7476
平成２５年　８月２３日　No. ９
発行責任者：校長　櫻井郁男

通知表

夏季休業中いかがお過ごしでしたか。日本で体験入学を経験した児童・生徒もたくさんおりましたね。朝礼・プール・クラブ活動・部活動・給食・清掃・・・様々な経験ができたことでしょう。また、体温を超える教室での６時間授業は、保護者の皆様におかれましては、ご心配なさったことでしょう。



日本人学校勤務時代に帰国する生徒にアドバイスをしたことがあります。「ここで靴を履き替えるんだね、校舎内が汚れなくていいね」「体育館履きがあると体育館で安心して運動できるね」等、これまで(香港)と違う経験をしたとき「いいね」という評価をすると、早くとけ込めることを伝えました。これを難しく言うと「異文化の尊重・受容」との表現になります。

「ニューヨークではハンカチを使いませんね」と、あるお父さんにお話ししたところ「登校から下校まで１枚のハンカチを使い続けるのは不衛生」と教えてもらいました。なるほどと思いましたが、日本では保健委員が「ハンカチチェック」を重要な活動としている小学校が多数です・・・

さて、本校は２期制ですので、日本のお友達がもらった通知表をこれから受け取ることになります。通知表の見方や評価の方法等については、通知表と共にお渡しいたしますが、ここで校長の考え方を少々お伝えいたします。

まず、本校は補習授業校ですから、日本の小・中学校と同様の教育活動を行うには時間的な限界があります。従って各教科の学習評価に関しても、文部科学省が示す評価規準・方法 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/ に準じて行っています。

「準じて」とお示しした訳は次の通りです。

例えば「理科(中・高等部で学習)」には「観察・実験の技能、表現」という評価項目があります。この項目については、少ない時数・火気や薬品を使えない補習校で評価をすることには無理がありますし、評価するための資料とてありません。本校は日本語と日本文化を大切した教育活動を実施することが基本です。従って国語以外の教科は、現地校で学習したことを日本語で理解する事に意義があります。「中点連結の定理・接弦の定理・初期微動・飽和水蒸気量・・・」現地校で学んでいることを「日本語でも理解・説明できること」が大切と判断しております。

とはいえ、本校の学習指導と学習評価は自己流ではありません。繰り返しますが、学習指導要領の「目標・内容」に沿った評価を実施しております。「指導と評価」は一体のものであり、教員が適切な評価をすることにより、児童・生徒の学習指導に生かされます。このことを肝に銘じ、６月末より「通知表の見直し」に着手しました。先任教頭と評価における課題を洗い出し、今年度は若干ですが文言の訂正や書式の変更をいたしました。

また、課題の中には現行学習指導要領との整合性について、いっそうの吟味が必要と判断しております。そこで、児童・生徒と向き合っている教員の声を聞きつつ、来年度に向け学習評価の改善に努めて参ります。